



©山内ふじ江

山内ふじ江「貝の子プチキュー」

「プラティスラヴァ世界絵本原画展」では、2007年展の受賞作品を集めた第1部のほか、第2部として、07年展に出品された日本人作家18人の作品も展示しています。

その中でもひときわ涼や

和紙に広がる壮大な海

かな作品が「貝の子プチキュー」です。

小さな貝の子プチキューが、見たことのないものを見ようと冒険に出るお話です。タツノオトシゴやエビなど様々な生き物に出会いながら、ついに見つけた満

天の星。最後は意外な結末が待っています。

この絵本の原画は、和紙の上に主にアクリル絵の具を用いて描かれています。明るくみずみずしい透明な色彩と、貝の粉や土を絵の具に混ぜて描いたという

岩や砂の質感が際立っています。

ダイナミックで幻想的、宇宙的とも言える壮大な海の世界が、小さな貝の子を中心に美しく表現されています。絵本を描いて40年のベテラン作家が心血を注い

で描いたという原画からは、プチキューへの慈しみが伝わってきます。

(うらわ美術館学芸員・山田志麻子)

うらわ美術館、読売新聞東京本社など主催。8月30日まで。一般500円、高校・大学生300円、中学生以下無料。JR浦和駅西口から徒歩7分、浦和ロイヤルパインズホテルと同じビルの3階。月曜休館（今月20日は開館し、翌21日休館）。問い合わせは同美術館（048・827・3215）へ。